

麗澤瑞浪の 四季だより

第20号 2013年7月22日 発行
麗澤瑞浪中学・高等学校 自然科学部

学園の湿地と植物について



皆さんは、湿地というと水をたっぷりと含んだ田んぼのようなイメージがあるかも知れません。しかし、学園内の湿地は、『湧水湿地』と言われ、^{ていたん}泥炭の蓄積が乏しい小規模の湿地です。森の中を歩いていくと突然視界が開け、目の前に川原の岩場のような景色が広がります。しかし、足元は常に水が染み出して、ぬかるんでいます。岩場の表面を、常に湧き水が流れている状況のため、土地は貧栄養な状態です。その湿地には、希少種や地域固有種も多く存在し、とても貴重な環境となっています。

新. ミミカキグサ



花茎は10 cm程度、地上葉は長さ2~3.5 mm、花は小さな黄色い花を1, 2個つけます。果実を包むガクの形が、耳かきの頭のような姿をしているので『ミミカキグサ』と名づけられました。一見すると普通の植物のようですが、浅く地中に這った地下茎には捕虫袋があり、プランクトンを捕食する食虫植物です。

新. ホザキノミミカキグサ

ミミカキグサの仲間、花色は紫色、花冠の一部が前方に突き出しているのが特徴です。同種のムラサキミミカキグサによく似ていますが、本種は花柄がごく短いことから区別できます。花が咲いた状態が『穂』



がついているように見えるので、ホザキノミミカキグサとされています。

新. カキラン

カキランの葉は長さ10cm程度で先のとがった笹のような姿です。草丈は30-70cmになります。花色は明るいオレンジ色、熟れた柿のような色なので、カキラン(柿蘭)の名前があります。花は径2cm前後



で全開せず半開き、一茎に10数輪咲かせます。別名はスズランといい、つぼみのときの花形を鈴に見立てたものです。昔は学園内の湿地にトクソウなどのランの仲間もありましたが、残念ながら盗掘され、絶滅してしまいました。このカキランも、園芸家に山野草として人気があると聞いています。このような貴重な植物は、自然の中で見て楽しむに留め、盗掘はやめてもらいたいものです。

新. コモウセンゴケ トウカイモウセンゴケ



コモウセンゴケはモウセンゴケ属の多年草、宮城県から南に広く分布しています。コケとはいいませんが、赤い小さな花を咲かせる被子植物の仲間です。モウセンゴケより一回り小さいことからコモウセンゴケと呼ばれます。近年、コモウセンゴケの関西型と考えられてきたものが、トウカイモウセンゴケとして種として認められました。コモウセンゴケの葉は葉と葉柄までの区別が曖昧なしゃもじ型、トウカイモウセンゴケの葉は、葉と葉柄の区別がより明確なさじ型であることが特徴の一つです。湿地帯では栄養が少ないため、長い腺毛から出る粘液で小昆虫を捕まえて養分を吸収します。小昆虫はもがいて逃げようとしますが、もがけばもがくほど腺毛が絡まり逃げられなくなります。そしてゆっくりと粘液に含まれている消化液で虫を消化して栄養にしていきます。

その他、今回の調査で、コバノトンボソウやイシモチソウなどの植物、ヒメタイコウチ、ハッチョウトンボなどの昆虫も発見することができました。

参考資料

『日本 野生植物館』奥田重俊 小学館

『新日本植物図鑑』牧野富太郎 北隆館

注: 植物名の前に記載した数字は、『麗澤瑞浪の樹木図鑑』の樹木ナンバー。『新』と書いてあるものは、新たに紹介する植物。